

# 最近みられたスギでの被害

## —コンテナ苗から成木まで—

森林環境部 川口エリ子

### ■背景

- ・最近の再造林の増加に伴い、スギ苗の生産や植栽が盛んに。  
→スギに関する被害の相談が増加傾向
- ・スギでの被害は、育苗中、植栽直後から成木まで、さまざまな段階で発生し、要因も多岐に渡る。
- ・最近みられたスギでの被害を紹介

### ■主な被害

表1 被害リスト

	被害の原因
苗木	<ul style="list-style-type: none"> <li>・散水むら、ハウス内の蒸れ、寒さ</li> <li>・発根不良</li> <li>・カイガラムシ、スギノハダニ</li> <li>・コガネムシ（ねきりむし）</li> </ul>
幼齢木	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活着不良、根腐れ</li> <li>・コガネムシ（ねきりむし）</li> <li>・ノウサギによる切断、樹皮かじり</li> <li>・シカによる食害、角こすり</li> <li>・凍霜害、干害</li> <li>・アワノメイガによる穿孔</li> <li>・巻いたテープ類の食い込み</li> </ul>
成木	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落雷、塩害、斜面崩壊</li> <li>・間伐遅れ</li> <li>・スギタマバエ</li> <li>・シカによる角こすり</li> </ul>

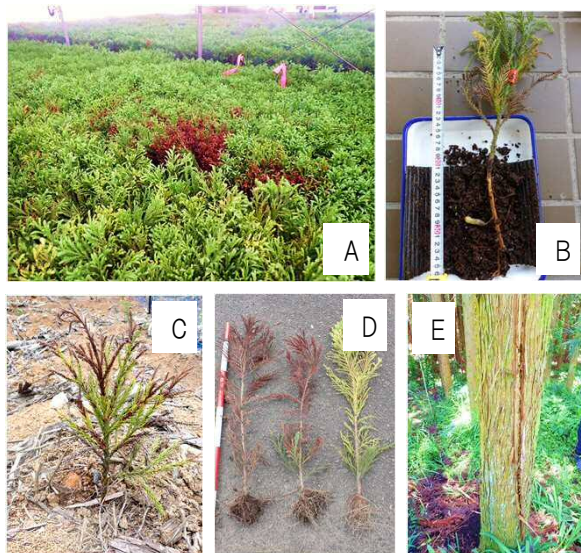


図1 スギでみられた被害

#### 育苗中の苗木

- ・散水むらによる乾燥枯れ（図1-A）、ハウス内の蒸れによる被害が多い。
- ・コガネムシ（ねきりむし）（図1-B）、カイガラムシ、スギノハダニなどによる虫害も発生

#### 幼齢木

- ・最も多い相談は、植栽後の活着不良による枯れ（図1-C）。  
植栽後の春～夏に相談が多い  
活着不良の原因としては、根切のしすぎ、根を広げていない、不適地への植栽（土壌が硬い、排水不良）、植栽までの苗の管理が不適切、などが考えられる。
- ・少雨による干害、凍霜害（図1-D）による枯死も。
- ・ウサギやシカによる食害や剥皮害
- ・コガネムシ（ねきりむし）による地下部の食害
- ・アワノメイガによる主軸の穿孔（図2）  
→被害は1例だが、当該被害地での被害本数率56%。  
本種によるスギへの被害、初確認（川口ら 2021）

#### 成木

- ・落雷被害（図1-E）。地面に達する裂傷がみられることも。
- ・台風あとには、海岸沿いで塩害がみられた。
- ・スギタマバエの寄生による、新芽が枯れる被害あり。



図2 アワノメイガによる穿孔被害  
A:穿孔部位での折損、B:主軸にみられた穿孔、  
C:穿孔部位で捕獲したアワノメイガ幼虫

### ■まとめ

- ・スギの被害は、各成長段階でさまざまな被害あり
- ・育苗環境、植栽までの苗の管理、植栽方法など、注意すれば避けられる被害も多い。  
→基本的な管理、丁寧な植栽の徹底を。
- ・植栽後の活着不良は、原因が不明になりがち  
→苗購入時は、苗の状態を確認（写真など記録を）
- ・大規模な虫害、伝染が懸念される病害はなく、被害のほとんどは古くから知られる被害。  
一方で、新たな虫害もあり、見慣れない被害にも注意を。

謝辞：調査にご協力いただいた関係者の皆様に感謝申し上げます。